

日 時：2018年6月28日(木) 13:00～16:40

6月29日(金) 9:30～12:10

場 所：[6/28] 流通科学大学 講義棟Ⅲ 2階 3209教室

[6/29] 富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター 大阪10階 Studio-A

出席者：42名

研修テーマ：教学 I R

1. 研修内容

第2回分科会は、流通科学大学様(1日目)と富士通デジタル・トランスフォーメーション・センター 大阪(2日目)を会場として開催いたしました。

1日目の会場校である流通科学大学様は、流通を科学的に研究教育することを通じて、世界の平和に貢献し、真に豊かな社会の実現に貢献できる人材を育成することを目的として設立された大学として、学内には「中内功記念館」や「ダイエー資料館」など流通に関する施設を備えており、今回はこれらの施設を見学しました。また事例紹介では、「大学 I R を業務の延長線上で考える～将来の入試制度改革においてBIとETLが支援できることを例に～」と題して、富士通株式会社よりご紹介いただきました。その後、『教学・情報部門が考える離学者対策とは』をテーマに意見交換(ワールド・カフェ)を行い、例えば「問題を抱えた学生を発見することが重要。そのためのツールとして出欠情報や保護者ポータルを使うのも手ではないか」、「経営的視点、教育的視点で考える必要があり、変化を早く見つけてあげることが大切」、「“人”の対応が必要、面談は効果的だが人数が多いと厳しい」、「初年度教育はあるが、継続的ではないのが課題」、「分析できても、対策を講じることができているのか? 考える必要がある」など活発な意見交換をすることができました。

2日目は、神戸学院大学 全学教育推進機構事務室 全学教育推進事務グループ 藤野津芳 様より、「実務としての教学 I R 推進活動 ～データで話す、伝える、考える～」と題して、神戸学院大学の教学 I R の目的・方向性・体制、構築に至るまでの状況や情報をどのように集め、どこまでを自動化し、いかに使えるデータを作成しているのかなど、実務的な分析手法を交えながらご紹介いただきました。その後、『教学 I R で実現できること』をテーマに意見交換を行い、例えば「分析によって常識を疑うこともできるし、自分の仮説を肯定することもできる」、「IR室と現場の認識に乖離がある(データが集まらない、IR室の分析したことが役に立たない、等)」、「目的を明確にしなければ、実現できることもできない」、「システムはあくまでツールであり、効率化するもの」、「問題意識を持つことが最初の一步」、「属人化はどこも抱えている課題、IR室のアウトソースも検討の余地有り」、「BIツールを皆が当たり前を使う時代は近い、Excelのように慣れていくものである」などキーワードが多数挙げられました。

教学 I R については、各大学どのように進めたらよいか多くの課題があるため、悩みの共有や解決のヒントを得るよい機会となりました。

2. スケジュール

6月28日 (木)

13:00~13:10 全体会
・会場校ご挨拶 流通科学大学 事務局長 大野 康人 様
・事務連絡 等

13:10~15:20 ご紹介
・「大学 I R を業務の延長線上で考える
～将来の入試制度改革においてBIとETLが支援できることを例に～」
富士通株式会社 文教ソリューション事業本部
ソリューション事業部 第一ソリューション部 滝沢 亮 様
意見交換
・テーマ：教学・情報部門が考える離学者対策とは

15:20~15:30 休憩

15:30~16:30 施設紹介、見学

16:30~16:40 まとめ

6月29日 (金)

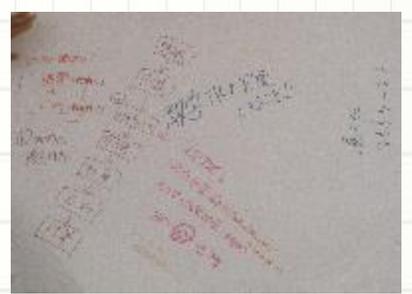
9:30~9:40 全体会
・事務連絡 等

9:40~10:40 ご講演
・「実務としての教学 I R 推進活動 ～データで話す、伝える、考える～」
神戸学院大学 全学教育推進機構
教学 I R 室 藤野 津芳 様

10:40~11:00 休憩

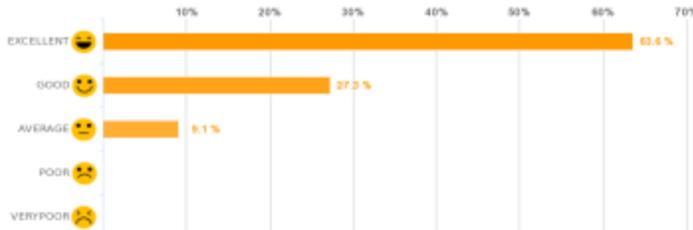
11:00~12:00 意見交換
・テーマ：教学 I R で実現できること

12:00~12:10 まとめ

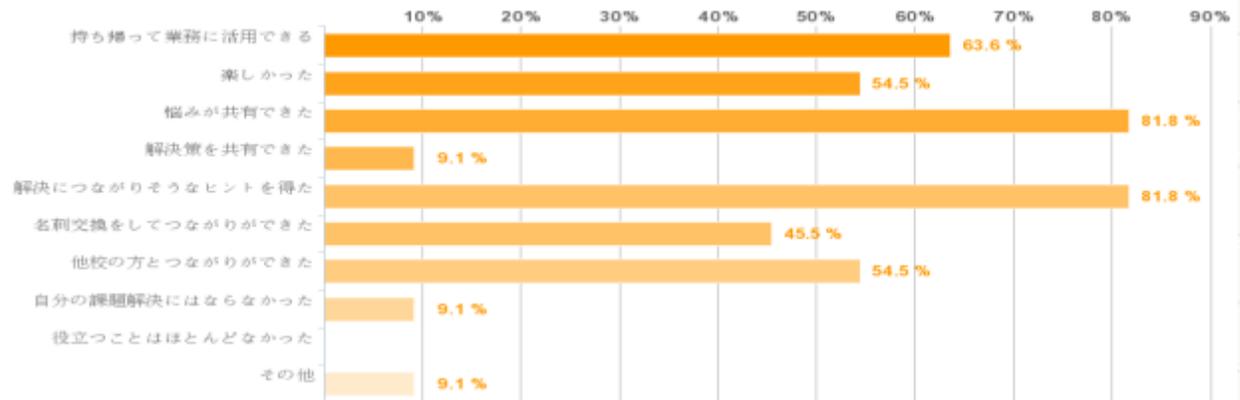


3. アンケート結果【回答率63%】(回収数10/16) ※総数「16」は会場校、ご講演者、富士通を除く

【Q1】今回の分科会についてお答えください。



【Q2】それはなぜか理由をお答えください（複数回答可）。



その他のコメント:勉強になった

【Q3】今回の分科会に関するご意見・ご感想があればご自由にご記入ください。

- ・運営に関わった皆さま、お疲れさまでした！とてもよい企画だったように思いました。
- ・知りたかったことのほとんどが両方の講演から得ることができ、違ったご意見、今までの認識と異なる気づきが得られて大変有意義でした。
- ・IR活動のきっかけとしてとてもよい講演内容、グループワークだったと思います。
- ・神戸学院さんの事例は大変勉強になりました。

【Q4】今後、分科会で扱ってほしいテーマや、施設見学・事例・ワークショップなど内容についての案やご意見がありましたらご記入ください。

- ・tableau 操作講習会とか
- ・保護者向け対応、ビーコンを使った出席管理、事務システムや教育用システムのクラウド利用における実態。
- ・授業時間の変更（90分→100分）やクォーター制、遠隔授業の取り組みについて
- ・経営IR

【Q5】C S 研の運営や活動等に関するご意見やご感想がありましたらご記入ください。

- ・役に立つ企画、取り組みをしていただきありがとうございます。

4. 参加校 [15校21名] ・賛助企業[2社21名]・参加総数42名

亜細亜大学[1]
関西国際大学[1]
神戸学院大学[1]
産業能率大学[1]
四国大学[1]

芝浦工業大学[1]
清泉女子大学[1]
千葉工業大学[2]
大東文化大学[1]
帝塚山学院大学[1]

東海大学[3]
東洋学園大学[1]
立教大学[1]
立正大学[1]
流通科学大学[4]

トレンドマイクロ(株)[1]
富士通株[18] 事務局[2]

5. 所感

本研修をとおして、どの部署においてもIR的視点は必要な能力であり、いかに適切な情報を元に効率的に分析し、客観的で伝わる（活用される）情報の提示が必要であるか再認識しました。

(事務局 池谷)